

1
2
Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

昔今
吉原大鑑

下

初編

80

85

90

95

76
1557
2

吉原大鑑初編卷之下

東都

太夫 薄雲の傳

豊茂子撰集

二浦やばな

為重の元祿の頃

姿のまをゆて青柳のどく

儂惚のるもそこのて情のなまこ

十有夜揚もの二階

書る一月先照り

外故人心と古傳



Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a single column and includes several lines of dense, flowing characters. Some characters are written in a slightly larger or bolder hand, possibly indicating emphasis or specific terms. The script is consistent throughout the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. This page contains a single column of text with a similar style of dense, flowing characters. The script is consistent with the right page, suggesting a continuous narrative or record. There are some variations in the thickness of the lines, possibly due to the ink or the speed of writing.

終持めく井のけ定夜の付る推打と先は持彩と
先はつと名妓よ本柄の傘はさうけかりよ是のち是と
ち後一衣くの各持る仲の可なりたるを言る中
よつある若婦のまの小笠と持八あつて是をあり又
小笠も白井の美おまよひまよひて持八せー初めより
はつ胸どうちうてはの体とわつて二世も二世もあ
先もあつてはぬやうと持八の井へ移りて夜とくは
魚のうの白井ハ浪人の月より持女の合をいつするもい
極るくちよハ下なまもま入甲る圃羊神金夜よ外も

あて人と切敷一奪ひえう金あて日産あつるといふ
ゆまも付ぬ月の奪りその後無名合の持めて終業と
敷一合と百あうをひまりその場とめげさううと天
の綱よかつて終よ終ぐ束の束とさうえぬその七後
と懐た長きとり納め月よあめちく葬りたるさてまは
はあつ二世とちまう一持八よころむをよりわつたをよ親
しと終ようけはさまぬその夜小笠のそこある者とわけ
りて月よの持八と葬りてちくちく終業の作もふ財を
一持八とほむむうひトさまぬう一れはの入るにじよふ



つらう一たのう一旅ひらむいゆそのまはひまうよあま
九字新しきのわまり

隠しとまうしきんたほづまゆ 隅田川

たえぬあぐれとりりまてゆ 汲

と痛くけらるるまきさうて不後よまひ右のま
は奉り更けおまうて移るひけまがはまてはつるわ
てかんト男一あ一旅のまうるまわされ一とま
傳よらのいさ怒るまうるありけり

紀文の傳

延喜のまの中務かよまをまうてつらあまのりゆ
一死すあり一ま七月移果あり一白
赤子あどは中太かこまより香おふつけおま
処は戸大太の母て徳人あまのと死まて知
あま別多くの妙復けら一けまがその金ておま
まをまあし人あり材木成実まうる此を死紀文
小判の完とわけ細成色一子信まつる一けれは
その大気よ別傳て材木成るまうる紀文山のり
ゆくへ推挽うまうるまうるふは戸大太の材木同や

けふふら戸中をたまたまのりかへるるがゆゑの横好めて
擡幕も集よりのまじり人形を置きよるるまじり
ちくしけりあまき居無形ちりちりく之く体中ころり
けり成紀文も新く入く向後ちりちりまじり
ちく流體文してまき居の入申けりまじりて二千あるど
あておきいひまじり終くひりてれはまじりの縁をまじり
そのまのち歌まじり神法まじり惟子とりまじりまじり
のちありありのけし十月上旬紀文別のもり太敷ま
社太敷のけしけしまじりまじり大門にまじりて上申下の

女帝表表の系やまじりるまじりあはまじりいひまじり
何れどあておきまじりちりけりまじり揚や人別けり
引あり目目ちりちりけりちりまじり二十二百あるど
あておきまじりてとまじりまじりまじりまじりまじり
あて大門にまじりて廟中けりまじりまじりまじりまじり
そのまじりあまじりまじりまじりまじりまじりまじり
ゆけいせんちりてちりちりまじりまじりまじりまじり
まじりまじり元禄十一年東蔵山誌まじりまじりまじり
紀文徳方けりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

僕が

北郭くわくの事こと亦また成なりす先まづ三浦みづら乃
高尾たかお傳つたへ書かき其その名な君きみの傳つたへ
集ありありありあ吉きち慮りょ大だい鑑かん心こころ此こゝ頃ころ
友とも人ひと南なん後ご人ひと吉きち持もちりり編あむむ切きりり乞こ

今いま再また二百にひゃく菜さいのむむここ徳とく先せん
生せいれれ作さりり多たくく殊こと又また大だい金かね小せうあ
りり燈とうのの清せい法ぽう小せう具ぐちちるる半はん也や
願ねがひひ世よ間まのの識し法ぽう和わくく不ふ否ひをを更さら
よよ昔むかしをを今いま是こゝ非ひちちりり古ふる事こと成なり彫たう

核ことまをわ嗟あ大お方かたのあるまのあらはせ

たらした成なり許ゆるした病やまもも平なし

乞こ乃の母は

癸巳晴多摩

乾
隱士述

